

授業科目	看護過程 I	担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	2 年次	単位数・時間数	1 単位・15 時間
科目目標	概念モデルに基づいて看護を科学的に提供するための思考過程を学び、看護過程展開の特徴を理解する。		
使用テキスト	成人看護学領域のテキスト		
評価方法	演習、態度、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 概念モデルに基づく看護過程	6	1 情報収集 1) アセスメントの視点に基づいた情報収集 2) ゴードンの枠組み 2 アセスメント 1) 看護問題の原因・誘因 2) 実在型看護問題・リスク型看護問題 3) 共同問題 3 ゴードン看護診断マニュアルを用いた看護診断 4 全体関連図 1) 病態関連図との違い 2) 記載方法の原則 5 看護問題の優先順位 6 看護目標設定 1) 長期目標、短期目標の違い 2) 看護目標と看護計画の関連性 7 看護計画の立案 患者の個別性を取り入れた看護計画 8 紙上事例による演習	模擬事例（電子カルテ・シミュレーション）を用いた個人演習
2. 看護実践と臨床判断	5	1 看護の実践 1) 看護計画の実践 2) その場に応じた対応 2 評価	校内実習 校内実習

授業科目	看護過程Ⅱ	担当講師	専任教員
開講年次	2年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	対象や状況の特徴に応じた看護過程展開の具体的な方法について学び、現実に即した問題解決力を習得する。		
使用テキスト	各領域のテキスト		
評価方法	演習、態度、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 各領域における看護過程展開の特徴	14	1 老年期における看護過程展開の特徴 1) 加齢現象と生活史をふまえた看護過程 2) 大腿骨頸部骨折患者の事例 2 小児期における看護過程展開の特徴 1) 成長発達過程と家族背景をふまえた看護過程 2) 乳幼児下痢症患者の事例 3 母性領域における看護過程展開の特徴 1) ウエルネス志向型の看護過程 2) 妊婦・褥婦・新生児の事例 4 精神領域における看護過程展開の特徴 1) 精神症状と日常生活能力をふまえた看護過程 2) 統合失調症急性期患者の事例 5 在宅領域における看護過程展開の特徴 1) 家族・環境・ケアチームをふまえた看護過程 2) 慢性閉塞性呼吸不全の療養者の事例	
2. 各領域における情報収集とアセスメント	4	1 対象の特徴をふまえた情報収集 2 対象の特徴をふまえたアセスメント	模擬事例（電子カルテ・シミュレーション）を用いた個人演習
3. 各領域における看護計画	2	1 状況を踏まえた看護計画 1) 看護目標 (1) 長期目標 (2) 短期目標 2) 看護計画 (1) 具体的計画 (2) 個別的計画	模擬事例（電子カルテ・シミュレーション）を用いた演習
4. 看護実践	2	1 大腿骨頸部骨折患者の看護の実践 2 乳幼児下痢症患者の看護の実践 3 正期産の褥婦・新生児の看護の実践 4 統合失調症急性期患者の看護の実践 5 慢性閉塞性呼吸不全の療養者の在宅看護の実践	演習（各グループ発表と意見交換） 各領域担当教員による学びの共有とまとめ・講評

授業科目	看護管理	担当講師	非常勤講師（実務経験のある認定看護管理者） 専任教員
開講年次	3年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	看護管理の基盤となる知識を習得し、看護がどのように組織化され質が保証されているかを理解する。 国際看護に関連する基礎的知識を習得し、諸外国における保健福祉医療の課題と国際協力について理解する。 在日外国人にとっての医療に関する問題点を知る。		
使用テキスト	ナースング・グラフィカ「看護管理」メディカ出版		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 協働：他者と共に活動すること (第2章)	2	1 チームを効果的に機能させる 2 リーダーシップ、フォロワーシップ 3 チームで協働するためのスキル 4 看護における協働 1) 継続看護 2) 多職種との協働	専任教員
2. 看護マネジメントとは (第3章)	4	1 看護マネジメントとは 2 看護マネジメントのプロセス 3 効果的・効率的に仕事をするということ	臨床看護師（認定看護管理者）による講義
3. 組織で取り組む看護活動 (第4章)	4	1 組織とその構造・機能 2 分業と協働 3 サービスマネジメント 1) サービス 2) 顧客 3) 資源 4 資源のマネジメント 1) ヒトの管理 2) モノの管理 3) 情報の管理 4) カネの管理 5 非常時への備え	
5. 看護の質向上のための取り組み (第5章)	2	1 看護倫理 2 医療安全 3 医療・看護の質改善 4 組織変革の方法	
4. 業務のマネジメント (第7章)	2	1 看護における業務と業務計画の立案 2 チームメンバーとの情報共有と協力 3 多重課題における対処	

		4 夜間における業務マネジメント	
5. セルフマネジメント (第8章)	2	1 健康的な働き方 2 ヘルスリテラシー 3 メンタルヘルス 4 からだの健康を保つ 5 時間管理	
6. 看護専門職とキャリア (第9章)	2	1 社会人になること 2 看護専門職とキャリア 3 生涯学習 4 看護管理に必要な能力	
7. 看護を取り巻く諸制度と病院経営 (第6章・10章)	2	1 看護に関係する主な法律 2 看護に関わる医療・介護制度	
8. 国際看護の概要と看護活動	6	1 国際看護学に関連する基礎知識 1) 定義・対象 2) 国際協力・開発協力・国際救援 2 グローバルヘルス 3 国際協力のしくみ 4 日本における外国人への看護 1) 文化を考慮した看護 2) 加賀市における外国人の受診の実際 5 世界の健康問題 1) 開発協力と看護 2) 国際救援	専任教員
9. 加賀市で生活する外国人の医療現場における外国人対応	4	1 在日外国人が日本で経験する医療文化の違い 2 保健医療現場における外国人対応について考える	専任教員 日本語学校に在籍する外国人とグループワーク

授業科目	医療安全	担当講師	非常勤講師（実務経験のある医療安全管理者） 専任教員
開講年次	3年次	単位数・時間数	1単位・15時間
科目目標	医療現場で取り組まれている安全対策を学び、看護事故防止の具体的方法を理解する。		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ「医療安全」メディカ出版		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 医療安全と看護の理念	2	1. 医療安全の概念 1) 医療安全を学ぶ意義 2) 医療安全に関わる動向 3) 医療安全の対象 4) 基本的用語 2. 看護職の法的規定と医療安全 1) 医行為と看護行為 2) 看護師の特定行為 3) 過失と法的責任	専任教員
2. 医療安全と質の良い医療の提供	4	1. 国の医療安全への取り組み 1) 医療法における医療安全対策 2) 診療報酬における医療安全対策の評価 2. 看護職能団体の医療安全への取り組み 3. 医療事故の定義・分類 4. 医療機関における安全管理 1) 医療安全管理者の役割 2) 医療事故への対応 5. 医療事故の報告制度 6. 医療の質の評価	医療安全管理者による講義
3. 医療安全対策の方法	2	1. 事故発生のメカニズム 1) ヒューマンエラーと行動モデル 2) 環境と人間特性 3) エラーの誘発環境と PmSHELL モデル 2. 事故分析 1) R C A 2) フレームワーク型分析 3. 事故対策 1) fool proof と fail safe 2) 戦略的エラー対策と戦術的エラー対策 3) K Y T 4. リスクマネジメント 1) 組織の安全文化とインシデント報告 2) チームで取り組む安全文化の醸成	専任教員

授業科目	看護倫理	担当講師	専任教員
開講年次	3年次	単位数・時間数	1単位・15時間
科目目標	1. 看護倫理の基盤となる理論や概念について理解する 2. 倫理綱領の理解をふまえ、看護実践の場で直面する倫理的課題を理解する 3. 倫理的問題・課題への対応について検討し、倫理的問題の感受性を高める		
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ「看護学概論」メディカ出版 「看護職の倫理綱領」日本看護協会出版会		
評価方法	演習、態度、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 看護倫理についての基本的な知識	4	1 患者の権利 2 生命倫理・看護倫理 3 看護職の倫理綱領 4 倫理原則 5 看護実践上の倫理的概念（インフォームドコンセント、アドボカシー、アカウントビリティ、ケアリング）	
2. 学生自身が体験した倫理的問題の事例	2	臨地実習における倫理的ジレンマが生じた場面の抽出	演習
3. 事例検討	6	グループワークとディスカッションによる事例検討 ～事例の倫理的問題を捉え調整していく実際の方法を検討～	演習
4. 事例検討発表、総括	3	1. 発表 2. 総括	演習

授業科目	看護研究	担当講師	非常勤講師（実務経験のある看護師・研究者） 専任教員
開講年次	3年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	看護研究の意義と方法を理解し、実践した看護の振り返りを論文としてまとめる。		
使用テキスト	「看護の現場ですぐに役立つ看護研究のポイント」秀和システム		
評価方法	レポート、ケーススタディ論文・発表により総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 看護研究の基礎	10	1 看護研究の意義と必要性 2 研究のプロセス 1) 研究テーマ 2) 文献検索 3) 研究計画書 4) データ収集 5) 結果の解釈・考察 3 研究デザイン 1) 研究の問いと研究の型 2) 質的研究と量的研究 4 論文のまとめ方 5 論文発表 6 クリティーク	非常勤講師（看護師：大学教員）による講義・演習
2. ケーススタディ論文作成	6	1 ケーススタディの概要 1) 看護研究におけるケーススタディの位置づけ 2) ケーススタディの目的 3) 文献検索の実際 4) ケーススタディ計画書 5) 論文作成 2 プレゼンテーション 1) 発表原稿 2) 発表補助資料（プレゼンテーションソフト）	医中誌検索演習 論文作成演習 プレゼンテーション演習
3. ケーススタディ発表	14	1 口演発表 2 質疑応答	

授業科目	災害看護	担当講師	非常勤講師（実務経験のある医師） 非常勤講師（実務経験のある看護師） 専任教員
開講年次	3年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	災害医療・災害看護に関する基礎的知識と技術に基づいて学び、災害支援について理解する。		
使用テキスト	ナーシンググラフィカ「災害看護」メディカ出版		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 災害医療の基礎知識	8	1 災害の定義および種類と健康被害 2 災害医療の特徴 1) 災害時の医療の考え方 2) 災害医療実施のための体系的なアプローチ 3) トリアージ 4) 災害サイクルから考える災害医療 5) 我が国の災害医療対応の整備 3 災害と法制度 4 災害と情報	非常勤講師（医師）
2. 災害看護の基礎知識	10	1 災害看護の定義と役割 2 災害看護の対象 1) 災害看護の対象者 2) 要配慮者・避難行動要支援者の特徴 3 災害看護の特徴と看護活動 1) 救急看護との違い 2) 看護現場別・災害サイクル別の看護活動 3) 災害発生時における救護者の安全対応 4 災害看護活動に必要な情報とアセスメント 5 避難所における看護の実際 1) 避難所の設置と運営 2) 避難所レイアウト 3) 避難所での生活における看護の役割	非常勤講師（看護師：災害支援ナース） 机上シュミレーション演習
3. 災害時時の応急処置	4	1 応急処置の原則 2 応急処置の実際 1) 三角巾を用いた包帯法の実際 2) 搬送と被災者への対応	校内実習
4. 防災訓練	8	1 加賀市総合防災訓練の概要 2 防災訓練演習 1) 応急手当訓練	演習

		2) 集団災害救出訓練 3 加賀市総合防災訓練参加	防災訓練参加
--	--	------------------------------	--------

授業科目	総合技術演習	担当講師	専任教員 (実務経験のある看護師)
開講年次	3年次	単位数・時間数	1単位・30時間
科目目標	臨地実習で実施した看護技術の学習到達度と自己の看護技術の課題を把握する。 臨床に近い看護場面に対する看護実践を通して、臨床判断能力と看護実践能力を育成する。		
使用テキスト	「根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術」医学書院		
評価方法	試験、レポートにより総合的に評価する。		
単元	時間数	学習内容	備考
1. 卒業レベルに到達するための全ての看護技術練習	2	1 看護技術の総合評価の目的と意義 2 臨地実習における看護技術の経験と学習到達度 1) 卒業到達レベルに達していない技術 2) 未体験の看護技術 3 未経験技術の自己学習と技術練習	知識・看護技術に関連する全テキストが学習対象となる
2. 臨床場면을想定した身体侵襲技術	16	1 対象の症状・状況に応じた看護 1) 対象特性の把握 2) 症状アセスメント 3) 症状を踏まえた援助の判断 2 看護技術の実践 1) 身体的侵襲が大きい技術 2) 就職後に実施頻度が高い技術 3 知識・技術・態度の統合 4 各事例の患者状況と看護技術 1) 呼吸障害がある患者の看護 ①口腔内吸引 ②胸腔ドレナージ 2) 排泄障害がある患者の看護 ①導尿 ②ストーマケア 3) 栄養障害がある患者の看護 経鼻経管栄養法 4) 血糖コントロール不良な患者の看護 血糖測定 5) 術後疼痛を訴える患者の看護 側管からの静脈内注射 6) 胸部症状がある患者の看護 十二誘導心電図 7) 予防接種後の看護 筋肉注射 8) 貧血症状がある患者の看護 輸血後の対応	臨床場面でよく見られる場면을シナリオ化して実施 校内実習

3. 多重課題と優先度の判断	8	1 看護の場面における多重課題 1) 多重課題とは 2) 多重課題遂行時のリスク 3) 多重課題への対処の原則 4) 複数患者受け持ちのケアマネジメント 2 業務の割り込み 1) 予期しない患者の反応 2) 突発的な事態の発生 3) 限られた時間内に実施することへの切迫感	演習
4. 事例に伴う臨床判断と看護実践	4	1 客観的臨床能力試験（OSCE） 2 フィードバックと振り返り	